

## 平成30年度「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」の概要



令和2年3月27日  
千葉県教育庁教育振興部  
児童生徒課  
043-223-4054

本調査は、児童生徒の生徒指導上の諸課題の現状を把握し、今後の施策の推進を目的に毎年実施されている文部科学省所管の統計調査です。

本概要は、暴力行為、いじめ、長期欠席、公立高等学校の中途退学、自殺に関する平成30年度調査の本県分（千葉市を含む公立学校）を取りまとめたものです。

### ■ 主な調査結果の前年度比較

項目	平成30年度	平成29年度	増減
暴力行為の発生件数	4,372件	4,346件	26件増加
いじめの認知件数	39,482件	35,833件	3,649件増加
小・中・義務教育学校不登校児童・生徒数	7,116人	6,243人	873人増
高等学校不登校生徒数	2,655人	2,616人	39人増
中途退学者数	1,353人	1,346人	7人増

#### 1 調査項目及び対象

##### (1) 暴力行為

県内全公立小・中・義務教育・高等学校

##### (2) いじめ

県内全公立小・中・義務教育・高等学校及び特別支援学校

##### (3) 小学校及び中学校における長期欠席の状況等

県内全公立小・中・義務教育学校

##### (4) 高等学校における長期欠席の状況等

県内全公立高等学校

##### (5) 高等学校における中途退学者数等の状況

県内全公立高等学校

##### (6) 自殺

県内全公立小・中・義務教育・高等学校

※義務教育学校においては、前期課程は小学校に、後期課程は中学校に計上

#### 2 調査対象期間

平成30年4月1日から平成31年3月31日までの1年間

### 3 調査結果の概要

#### (1) 小・中・高等学校における暴力行為の発生件数は4, 372件で、前年度の4, 346件より26件増加。

##### ア 校種別発生件数

小学校における発生件数は2, 561件で、前年度の2, 455件より106件増加している。

中学校における発生件数は1, 577件で、前年度の1, 701件より124件減少している。

高等学校における発生件数は234件で、前年度の190件より44件増加している。

##### イ 形態別発生件数

###### (ア) 対教師暴力

小学校における発生件数は230件で、前年度の358件より128件減少している。中学校における発生件数は88件で、前年度の151件より63件減少している。高等学校における発生件数は13件で、前年度の12件より1件増加している。

###### (イ) 生徒間暴力

小学校における発生件数は2, 103件で、前年度の1, 882件より221件増加している。中学校における発生件数は1, 064件で、前年度の976件より88件増加している。高等学校における発生件数は144件で、前年度の123件より21件増加している。

###### (ウ) 対人暴力

小学校における発生件数は22件で、前年度の18件より4件増加している。中学校における発生件数は47件で、前年度の54件より7件減少している。高等学校における発生件数は13件で、前年度の10件より3件増加している。

###### (エ) 器物損壊

小学校における発生件数は206件で、前年度の197件より9件増加している。中学校における発生件数は378件で、前年度の520件より142件減少している。高等学校における発生件数は64件で、前年度の45件より19件増加している。

#### (2) 小・中・高等学校・特別支援学校におけるいじめの認知件数は39, 482件で、前年度の35, 833件より3, 649件増加。

##### ア 校種別認知件数

(ア) 小学校における認知件数は31, 641件で、前年度の28, 951件より2, 690件増加している。

(イ) 中学校における認知件数は6, 898件で、前年度の6, 267件より631件増加している。

(ウ) 高等学校における認知件数は763件で、前年度の448件より315件増加している。

(エ) 特別支援学校における認知件数は180件で、前年度の167件より13件増加している。

イ いじめの現在の状況

いじめの現在の状況（平成31年3月31日現在）としては、「解消しているもの」が32,120件で、全認知件数の81.4%、「解消に向けて取組中」が7,302件で18.5%、「その他」が60件で0.2%である。

ウ いじめの発見のきっかけ

(ア) 小学校での「いじめの発見のきっかけ」のうち上位3つは、①アンケート調査など(69.1%)、②本人からの訴え(12.6%)、③学級担任が発見(10.3%)である。

(イ) 中学校での「いじめの発見のきっかけ」のうち上位3つは、①アンケート調査など(55.0%)、②本人からの訴え(18.9%)、③学級担任が発見(9.0%)である。

(ウ) 高等学校での「いじめの発見のきっかけ」のうち上位3つは、①アンケート調査など(65.0%)、②本人からの訴え(17.4%)、③学級担任が発見(4.6%)である。

(エ) 特別支援学校での「いじめの発見のきっかけ」のうち上位3つは、①アンケート調査など(89.4%)、②学級担任が発見(3.9%)、②本人からの訴え(3.9%)である。

エ いじめられた児童生徒の相談の状況

(ア) 小学校の児童の「相談の状況」のうち上位3つは、①学級担任に相談(82.6%)、②保護者や家族等に相談(17.2%)、③友人に相談(5.8%)である。[※誰にも相談していない(6.4%)を除いた順位]

(イ) 中学校の生徒の「相談の状況」のうち上位3つは、①学級担任に相談(74.6%)、②保護者や家族等に相談(21.3%)、③学級担任以外の教職員に相談(14.6%)である。

(ウ) 高等学校の生徒の「相談の状況」のうち上位3つは、①学級担任に相談(61.2%)、②友人に相談(25.4%)、③学級担任以外の教職員に相談(21.1%)である。

(エ) 特別支援学校の児童生徒の「相談の状況」のうち上位3つは、①学級担任に相談(95.0%)、②保護者や家族等に相談(8.3%)、③学級担任以外の教職員に相談(7.8%)である。

オ いじめの態様

(ア) 小学校での「いじめの態様」のうち上位3つは、①冷やかしやからかい、悪口等(59.1%)、②軽くぶつかられる、たたかれる等(26.6%)、③仲間はずれ、集団による無視(17.0%)である。

(イ) 中学校での「いじめの態様」のうち上位3つは、①冷やかしやからかい、悪口等(66.9%)、②軽くぶつかられる、たたかれる等(16.2%)、③仲間はずれ、集団による無視(14.9%)である。

(ウ) 高等学校での「いじめの態様」のうち上位3つは、①冷やかしやからかい、悪口等(63.3%)、②仲間はずれ、集団による無視(20.3%)、③パソコンや携帯電話等で、ひぼう・中傷や嫌なことをされる(18.3%)である。

(エ) 特別支援学校での「いじめの態様」のうち上位3つは、①冷やかしやからかい、悪口等(63.9%)、②軽くぶつかられる、たたかれる(33.3%)、③仲間はずれ、集団による無視(5.6%)である。[※そ

の他（9.4%）を除いた順位]

- (3) 小学校における長期欠席児童数は4,627人で、全児童に対する割合は1.48%である。長期欠席児童の中で不登校を理由としている児童数は2,016人で、前年度の1,606人より410人増加し、全児童に対する割合は0.65%で0.14ポイント増加。

- 中学校における長期欠席生徒数は7,355人で、全生徒に対する割合は4.97%である。長期欠席生徒の中で不登校を理由としている生徒数は5,100人で、前年度の4,637人より463人増加し、全生徒に対する割合は3.44%で0.38ポイント増加。

※不登校児童生徒数（平成30年度に通算して30日以上欠席した児童生徒のうち「不登校」を理由とする児童生徒数）

ア 長期欠席者の状況

(ア) 小学校の長期欠席者4,627人のうち、「病気」は1,739人で長期欠席者全体に占める割合は37.6%、「経済的理由」は0人、「不登校」は2,016人で長期欠席者全体に占める割合は43.6%、「その他」は872人で長期欠席者全体に占める割合は18.8%である。

(イ) 中学校の長期欠席者7,355人のうち、「病気」は1,819人で長期欠席者全体に占める割合は24.7%、「経済的理由」は0人、「不登校」は5,100人で、長期欠席者全体に占める割合は69.3%、「その他」は436人で長期欠席者全体に占める割合は5.9%である。

イ 不登校の要因

(ア) 小学校の児童で「不登校の要因」の学校・家庭に係る要因を示す区分のうち上位3つは、①家庭に係る状況（46.1%）、②いじめを除く友人関係をめぐり問題（24.5%）、③学業の不振（11.7%）である。なお「いじめ」は0.1%である。[※左記（上記）に該当なし（15.3%）を除いた順位]

また、本人に係る要因を示す分類のうち上位2つは、「不安」の傾向がある、「無気力」の傾向がある（共に30.8%）となっている。

(イ) 中学校の生徒で「不登校の要因」の学校・家庭に係る要因を示す区分のうち上位3つは、①いじめを除く友人関係をめぐり問題（33.8%）、②家庭に係る状況（25.3%）、③学業の不振（22.9%）である。なお「いじめ」は0.2%である。また、本人に係る要因を示す分類のうち上位2つは、①「無気力」の傾向がある（29.9%）、②「不安」の傾向がある（29.6%）となっている。

ウ 不登校児童生徒の欠席の状況

(ア) 小学校の不登校児童で「うち、90日以上欠席している者」の割合は47.4%、「うち、出席日数が10日以下の者」の割合は7.0%、「うち、出席日数が0日の者」の割合は2.6%である。

(イ) 中学校の不登校生徒で「うち、90日以上欠席している者」の割合は64.0%、「うち、出席日数が10日以下の者」の割合は13.5%、「うち、出席日数が0日の者」の割合は4.3%である。

エ 不登校児童生徒への指導結果状況

(ア) 小学校の不登校児童で「指導の結果登校する又はできるようになった児童」の割合は、24.0%である。

不登校児童のうち、指導により「継続した登校には至らないものの好ましい変化が見られるようになった児童」の割合は、21.1%である。

(イ) 中学校の不登校生徒で「指導の結果登校する又はできるようになった生徒」の割合は、24.4%である。

不登校生徒のうち、指導により「継続した登校には至らないものの好ましい変化が見られるようになった生徒」の割合は、24.4%である。

オ 不登校児童生徒が相談・指導等を受けた学校内外の機関等

(ア) 小学校の不登校児童で「相談・指導等を受けた学校内外の機関等」のうち上位3つは、①スクールカウンセラー、相談員等(32.1%)、②養護教諭(19.5%)、③教育委員会所管の機関(教育支援センターを除く)(14.3%)である。

(イ) 中学校の不登校生徒で「相談・指導等を受けた学校内外の機関等」のうち上位3つは、①スクールカウンセラー、相談員等(34.0%)、②養護教諭(18.3%)、③教育支援センター(10.8%)である。

**(4) 高等学校における長期欠席生徒数は3,300人で、全生徒に対する割合は3.22%である。長期欠席生徒の中で不登校を理由としている生徒数は2,655人で、前年度の2,616人より39人増加し、全生徒に対する割合は2.59%で前年度より0.06ポイント増加。**

ア 長期欠席者の状況

(ア) 長期欠席者3,300人のうち、「病気」は395人で長期欠席者全体に占める割合は12.0%、「経済的理由」は51人で長期欠席者全体に占める割合は1.5%、「不登校」は2,655人で長期欠席者全体に占める割合は80.5%、「その他」は199人で長期欠席者全体に占める割合は6.0%である。

(イ) 長期欠席者で「不登校」を理由としている生徒のうち、全日制の生徒数は1,914人で、全日制生徒全体に対する割合は1.9%、定時制の生徒数は741人で、定時制生徒全体に対する割合は27.1%である。

イ 不登校の要因

(ア) 全日制の生徒で「不登校の要因」の学校・家庭に係る要因を示す区分のうち上位3つは、①学業の不振(28.0%)、②いじめを除く友人関係をめぐる問題(19.4%)、③入学、転編入学、進級時の不適応(14.8%)である。なお「いじめ」は0.3%である。

また、本人に係る要因を示す分類のうち上位2つは、①「無気力」の傾向がある(44.4%)、②「学校における人間関係」に課題を抱えている(18.3%)となっている。

(イ) 定時制の生徒で「不登校の要因」の学校・家庭に係る要因を示す区分のうち上位3つは、①いじめを除く友人関係をめぐる問題(28.2%)、②家庭に係る状況(25.4%)、③学業の不振(25.2%)である。なお「いじめ」は0件である。

また、本人に係る要因を示す分類のうち上位2つは、①「無気力」の傾向がある(37.9%)、②「不安」の傾向がある(17.8%)。[※その他(22.7%)を除いた順位]

ウ 不登校生徒の欠席の状況

高等学校の不登校生徒で「うち、90日以上欠席している者」の割合は13.6%、「うち、出席日数が10日以下の者」の割合は3.3%、「うち、出席日数が0日の者」の割合は0.9%である。

エ 不登校生徒への指導結果状況

高等学校の不登校生徒で「指導の結果登校する又はできるようになった生徒」の割合は、全日制で44.4%、定時制で26.3%である。

不登校の生徒のうち、指導により、「継続した登校には至らないものの好ましい変化が見られるようになった生徒」の割合は、全日制で10.9%、定時制で8.4%である。

オ 不登校生徒が相談・指導等を受けた学校内外の機関等

不登校生徒が「相談・指導等を受けた学校内外の機関等」のうち上位3つは、①養護教諭(20.0%)、②スクールカウンセラー、相談員等(19.7%)、③病院・診療所(6.0%)である。

**(5) 公立高等学校の中途退学者数は1,353人で、前年度の1,346人より7人増加し、年度当初の在籍者数に占める割合は1.31%であり、前年度の1.29%より0.02ポイント増加。**

(※平成30年4月1日の在籍者数103,491人を基準とする中途退学率)

**課程別に見ると、全日制が1,054人で、前年度の1,008人より46人増加し、定時制は262人で、前年度の327人より65人減少。通信制は37人で、前年度の11人より26人増加。**

ア 課程別の中途退学率は、全日制が1.06%で前年度の1.00%より0.06ポイント増加している。定時制は9.54%で前年度の11.43%より1.89ポイント減少している。通信制は3.54%で前年度の1.01%より2.53ポイント増加している。

イ 全日制の学年別中途退学率は、第1学年では1.67%、第2学年では1.48%、第3学年では0.43%である。また、単位制では0.53%である。

ウ 全中途退学者数に占める割合は、全日制において第1学年では32.6%、第2学年では29.0%、第3学年では8.6%、単位制では7.7%である。また、定時制は19.4%、通信制は2.7%である。

エ 中途退学の理由の上位3つは、①学校生活・学業不適應(44.2%)、②進路変更(25.9%)、③学業不振(15.7%)である。

(ア)「学校生活・学業不適應」の内訳としての上位3つは、①もともと高校生活に熱意がない(45.5%)、②人間関係がうまく保てない(22.4%)、③授業に興味湧かない(11.4%)である。

(イ)「進路変更」の内訳としての上位3つは、①別の高校への入学を希望(46.9%)、②就職を希望(28.6%)、③専修・各種学校への入学を希望(7.7%)である。[※その他(11.7%)を除いた順位]

**(6) 小・中・高等学校における自殺者数は22人(小0人、中8人、高14人)。**

# 千葉県の問題行動・不登校等の諸課題の概要

## 1 暴力行為

校種別 形態・年度	小学校(件)		中学校(件)		高等学校(件)		合計(件)			増減	
	学校内	学校外	学校内	学校外	学校内	学校外	学校内	学校外	計		
対教師 暴力	20年度	45	0	279	2	18	0	342	2	344	
	21年度	64	0	183	0	14	0	261	0	261	△ 83
	22年度	75	2	271	0	30	0	376	2	378	117
	23年度	83	0	244	14	21	0	348	14	362	△ 16
	24年度	80	0	211	1	20	0	311	1	312	△ 50
	25年度	98	0	271	2	14	0	383	2	385	73
	26年度	225	0	235	3	17	0	477	3	480	95
	27年度	145	0	154	1	12	0	311	1	312	△ 168
	28年度	127	0	257	0	7	0	391	0	391	79
	29年度	358	0	151	0	12	0	521	0	521	130
<b>30年度</b>	<b>230</b>	<b>0</b>	<b>88</b>	<b>0</b>	<b>13</b>	<b>0</b>	<b>331</b>	<b>0</b>	<b>331</b>	<b>△ 190</b>	
生徒間 暴力	20年度	199	35	969	96	184	19	1,352	150	1,502	
	21年度	278	15	1,006	137	177	20	1,461	172	1,633	131
	22年度	317	8	1,063	144	179	29	1,559	181	1,740	107
	23年度	317	24	1,088	128	154	23	1,559	175	1,734	△ 6
	24年度	353	23	1,048	148	152	22	1,553	193	1,746	12
	25年度	535	33	1,212	138	123	21	1,870	192	2,062	316
	26年度	668	20	1,210	123	139	12	2,017	155	2,172	110
	27年度	1,077	54	1,102	62	143	9	2,322	125	2,447	275
	28年度	1,238	47	1,148	42	103	16	2,489	105	2,594	147
	29年度	1,801	81	936	40	111	12	2,848	133	2,981	387
<b>30年度</b>	<b>2,030</b>	<b>73</b>	<b>1,017</b>	<b>47</b>	<b>136</b>	<b>8</b>	<b>3,183</b>	<b>128</b>	<b>3,311</b>	<b>330</b>	
対人 暴力	20年度	4	7	10	53	2	12	16	72	88	
	21年度	11	1	23	74	0	15	34	90	124	36
	22年度	7	3	14	56	0	18	21	77	98	△ 26
	23年度	15	2	9	48	0	17	24	67	91	△ 7
	24年度	2	2	8	65	0	8	10	75	85	△ 6
	25年度	19	2	44	66	3	13	66	81	147	62
	26年度	7	8	12	41	1	3	20	52	72	△ 75
	27年度	19	5	37	18	6	1	62	24	86	14
	28年度	9	2	38	38	3	7	50	47	97	11
	29年度	16	2	27	27	2	8	45	37	82	△ 15
<b>30年度</b>	<b>17</b>	<b>5</b>	<b>19</b>	<b>28</b>	<b>9</b>	<b>4</b>	<b>45</b>	<b>37</b>	<b>82</b>	<b>0</b>	
器物 損壊	20年度	40	—	1,051	—	75	—	1,166	—	1,166	
	21年度	86	—	821	—	57	—	964	—	964	△ 202
	22年度	109	—	801	—	54	—	964	—	964	0
	23年度	98	—	714	—	84	—	896	—	896	△ 68
	24年度	86	—	575	—	83	—	744	—	744	△ 152
	25年度	101	—	673	—	63	—	837	—	837	93
	26年度	134	—	661	—	38	—	833	—	833	△ 4
	27年度	143	—	487	—	43	—	673	—	673	△ 160
	28年度	116	—	495	—	43	—	654	—	654	△ 19
	29年度	197	—	520	—	45	—	762	—	762	108
<b>30年度</b>	<b>206</b>	<b>—</b>	<b>378</b>	<b>—</b>	<b>64</b>	<b>—</b>	<b>648</b>	<b>—</b>	<b>648</b>	<b>△ 114</b>	
合計	20年度	288	42	2,309	151	279	31	2,876	224	3,100	
	21年度	439	16	2,033	211	248	35	2,720	262	2,982	△ 118
	22年度	508	13	2,149	200	263	47	2,920	260	3,180	198
	23年度	513	26	2,055	190	259	40	2,827	256	3,083	△ 97
	24年度	521	25	1,842	214	255	30	2,618	269	2,887	△ 196
	25年度	753	35	2,200	206	203	34	3,156	275	3,431	544
	26年度	1,034	28	2,118	167	195	15	3,347	210	3,557	126
	27年度	1,384	59	1,780	81	204	10	3,368	150	3,518	△ 39
	28年度	1,490	49	1,938	80	156	23	3,584	152	3,736	218
	29年度	2,372	83	1,634	67	170	20	4,176	170	4,346	610
<b>30年度</b>	<b>2,483</b>	<b>78</b>	<b>1,502</b>	<b>75</b>	<b>222</b>	<b>12</b>	<b>4,207</b>	<b>165</b>	<b>4,372</b>	<b>26</b>	

## 2 いじめ

年度	小学校 (件)	中学校 (件)	高等 学校(件)	特別支援 学校(件)	合計(件)	増減
20年度	3,646	3,244	145	6	7,041	
21年度	3,570	2,997	93	14	6,674	△ 367
22年度	4,239	3,931	158	7	8,335	1,661
23年度	3,672	3,556	138	12	7,378	△ 957
24年度	14,175	5,916	565	31	20,687	13,309
25年度	13,884	6,162	132	9	20,187	△ 500
26年度	19,410	6,180	197	24	25,811	5,624
27年度	22,537	6,499	213	127	29,376	3,565
28年度	24,876	6,376	253	112	31,617	2,241
29年度	28,951	6,267	448	167	35,833	4,216
<b>30年度</b>	<b>31,641</b>	<b>6,898</b>	<b>763</b>	<b>180</b>	<b>39,482</b>	<b>3,649</b>

### 3 不登校

年度	小学校不登校生徒数		中学校不登校生徒数		合計(人)	増減	高等学校不登校生徒数		増減
	不登校児童数(人)	不登校率(%)	不登校生徒数(人)	不登校率(%)			不登校生徒数(人)	不登校率(%)	
20年度	811	0.24%	4,340	2.87%	5,151		2,851	2.86%	
21年度	852	0.26%	4,247	2.77%	5,099	△ 52	2,376	2.39%	△ 475
22年度	871	0.26%	4,182	2.74%	5,053	△ 46	2,506	2.47%	130
23年度	898	0.27%	3,879	2.51%	4,777	△ 276	3,017	2.93%	511
24年度	856	0.26%	3,734	2.42%	4,590	△ 187	2,890	2.77%	△ 127
25年度	1,086	0.34%	3,884	2.51%	4,970	380	2,845	2.75%	△ 45
26年度	1,158	0.36%	3,963	2.56%	5,121	151	2,939	2.82%	94
27年度	1,233	0.39%	4,160	2.69%	5,393	272	2,604	2.51%	△ 335
28年度	1,456	0.46%	4,191	2.73%	5,647	254	2,658	2.55%	54
29年度	1,606	0.51%	4,637	3.06%	6,243	596	2,616	2.53%	△ 42
<b>30年度</b>	<b>2,016</b>	<b>0.65%</b>	<b>5,100</b>	<b>3.44%</b>	<b>7,116</b>	<b>873</b>	<b>2,655</b>	<b>2.59%</b>	<b>39</b>

### 4 高等学校の長期欠席状況等

年度	生徒数(人)	長期欠席者			増減	長欠率(%)
		不登校(人)	病気・経済的・その他(人)	合計		
20年度	99,616	2,851	1,672	4,523		4.54%
21年度	99,497	2,376	1,238	3,614	△ 909	3.63%
22年度	101,647	2,506	1,178	3,684	70	3.62%
23年度	102,897	3,017	877	3,894	210	3.78%
24年度	104,388	2,890	922	3,812	△ 82	3.65%
25年度	103,495	2,845	828	3,673	△ 139	3.55%
26年度	104,268	2,939	737	3,676	3	3.53%
27年度	103,808	2,604	845	3,449	△ 227	3.32%
28年度	104,045	2,658	921	3,579	130	3.44%
29年度	103,490	2,616	633	3,249	△ 330	3.14%
<b>30年度</b>	<b>102,396</b>	<b>2,655</b>	<b>645</b>	<b>3,300</b>	<b>51</b>	<b>3.22%</b>

### 5 高等学校の中途退学者

年度	中退率(%)	全日制(人)	定時制(人)	通信制(人)	合計(人)	増減
20年度	2.19%	1,695	490	—	2,185	
21年度	1.75%	1,305	440	—	1,745	△ 440
22年度	1.62%	1,157	494	—	1,651	△ 94
23年度	1.66%	1,177	530	—	1,707	56
24年度	1.50%	1,083	480	—	1,563	△ 144
25年度	1.51%	1,107	473	10	1,590	27
26年度	1.40%	1,020	443	14	1,477	△ 113
27年度	1.24%	875	391	38	1,304	△ 173
28年度	1.27%	1,008	282	42	1,332	28
29年度	1.29%	1,008	327	11	1,346	14
<b>30年度</b>	<b>1.31%</b>	<b>1,054</b>	<b>262</b>	<b>37</b>	<b>1,353</b>	<b>7</b>

注1)平成25年度より通信制課程が加わった。

### 6 自殺

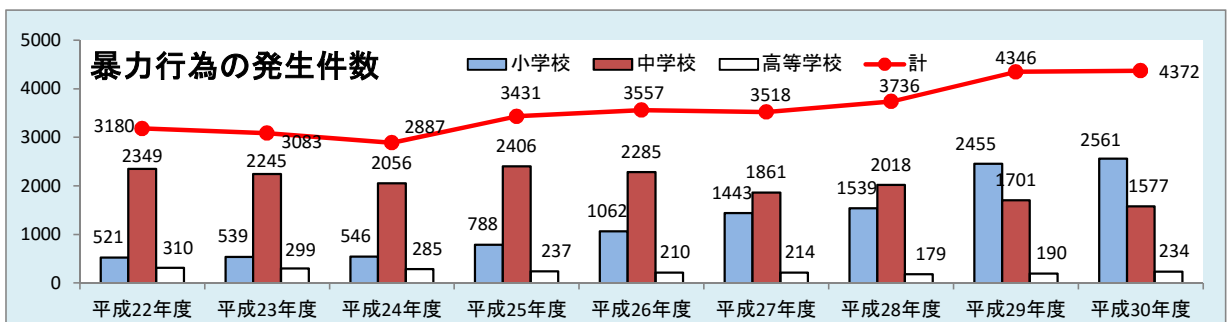
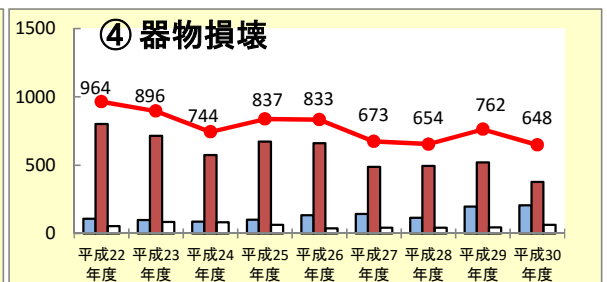
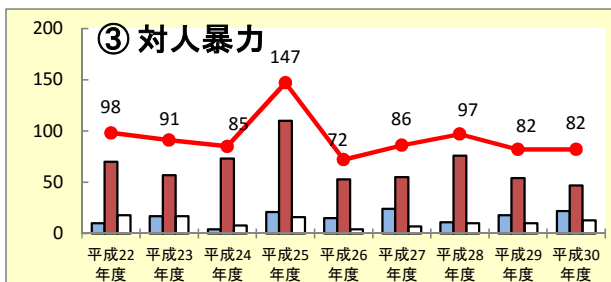
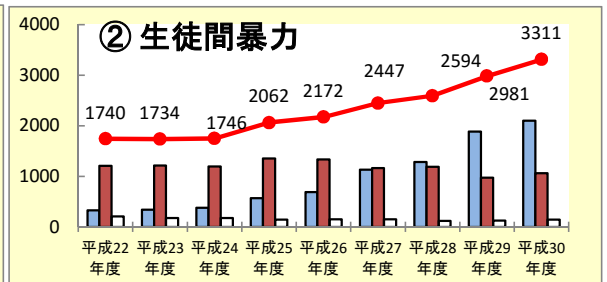
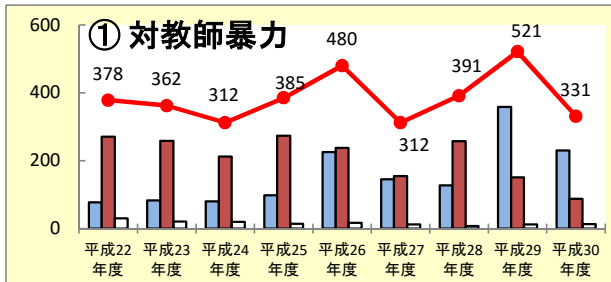
年度	小学校(人)	中学校(人)	高等学校(人)	合計(人)
20年度	0	3	4	7
21年度	0	2	4	6
22年度	0	1	5	6
23年度	0	1	0	1
24年度	1	2	9	12
25年度	0	4	8	12
26年度	2	4	7	13
27年度	0	4	4	8
28年度	0	2	6	8
29年度	1	6	6	13
<b>30年度</b>	<b>0</b>	<b>8</b>	<b>14</b>	<b>22</b>



# 平成30年度 公立小・中・高等学校の暴力行為の発生件数(千葉県)

(単位:延べ件数)

年度	学校種別	① 対教師暴力		② 生徒間暴力		③ 対人暴力		④ 器物損壊	小計	計
		校内	校外	校内	校外	校内	校外	校内		
平成22年度	小学校	75	2	317	8	7	3	109	521	3,180
	中学校	271	0	1,063	144	14	56	801	2,349	
	高等学校	30	0	179	29	0	18	54	310	
平成23年度	小学校	83	0	317	24	15	2	98	539	3,083
	中学校	244	14	1,088	128	9	48	714	2,245	
	高等学校	21	0	154	23	0	17	84	299	
平成24年度	小学校	80	0	353	23	2	2	86	546	2,887
	中学校	211	1	1,048	148	8	65	575	2,056	
	高等学校	20	0	152	22	0	8	83	285	
平成25年度	小学校	98	0	535	33	19	2	101	788	3,431
	中学校	271	2	1,212	138	44	66	673	2,406	
	高等学校	14	0	123	21	3	13	63	237	
平成26年度	小学校	225	0	668	20	7	8	134	1,062	3,557
	中学校	235	3	1,210	123	12	41	661	2,285	
	高等学校	17	0	139	12	1	3	38	210	
平成27年度	小学校	145	0	1,077	54	19	5	143	1,443	3,518
	中学校	154	1	1,102	62	37	18	487	1,861	
	高等学校	12	0	143	9	6	1	43	214	
平成28年度	小学校	127	0	1,238	47	9	2	116	1,539	3,736
	中学校	257	0	1,148	42	38	38	495	2,018	
	高等学校	7	0	103	16	3	7	43	179	
平成29年度	小学校	358	0	1,801	81	16	2	197	2,455	4,346
	中学校	151	0	936	40	27	27	520	1,701	
	高等学校	12	0	111	12	2	8	45	190	
平成30年度	小学校	230	0	2,030	73	17	5	206	2,561	4,372
	中学校	88	0	1,017	47	19	28	378	1,577	
	高等学校	13	0	136	8	9	4	64	234	



※ 暴力行為の定義(平成19年度一部改訂)

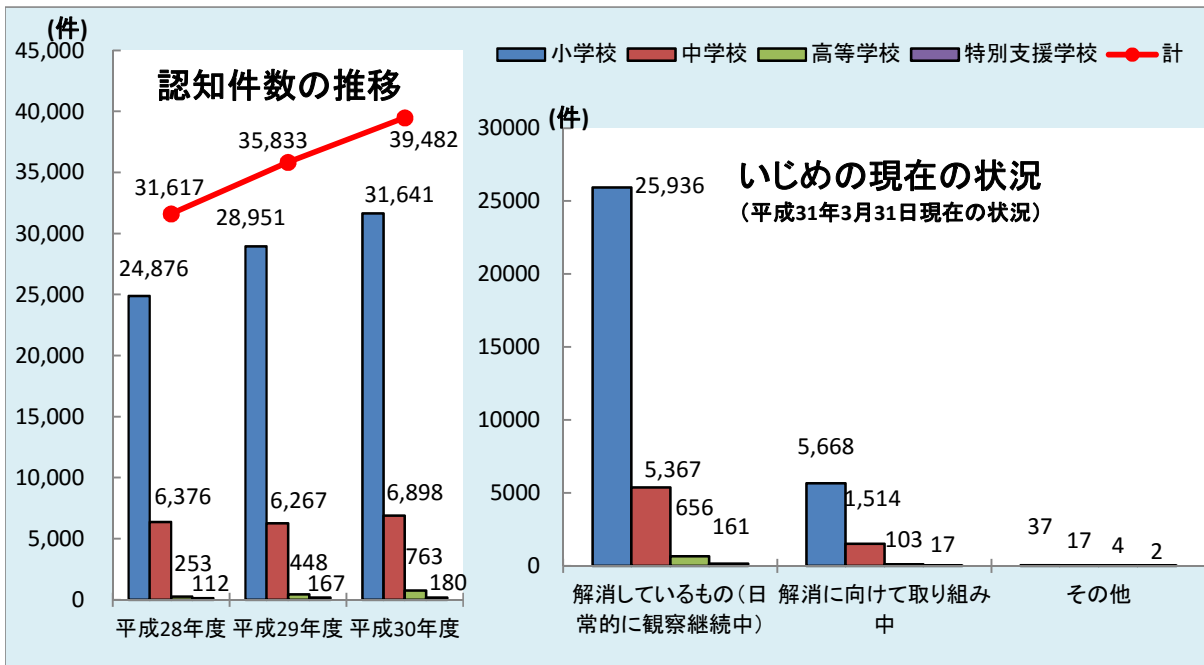
「暴力行為」とは、「自校の児童生徒が、故意に有形力(目に見える物理的な力)を加える行為」をいい、被暴力行為の対象によって、「対教師暴力」(教師に限らず、用務員等の学校職員も含む)、「生徒間暴力」(何らかの人間関係がある児童生徒同士に限る)、「対人暴力」(対教師暴力、生徒間暴力の対象者を除く)、学校の施設・設備等の「器物損壊」の四形態に分ける。ただし、家族・同居人に対する暴力行為は、調査対象外とする。

# 平成30年度 公立小・中・高・特支のいじめの状況等(千葉県)

## 1 いじめの認知状況等

	区 分	公立学校 総数	うち認知校数及び 割合(%)		認知件数	増減【%】	一校平均 件数
			校数	割合(%)			
小学校	平成28年度	806	682	84.6%	24,876	2,339【10.4%】	30.9
	平成29年度	796	724	91.0%	28,951	4,075【16.4%】	36.4
	平成30年度	794	745	93.8%	31,641	2,690【9.3%】	39.9
中学校	平成28年度	381	348	91.3%	6,376	△123【△1.9%】	16.7
	平成29年度	379	352	92.9%	6,267	△109【△1.7%】	16.5
	平成30年度	379	362	95.5%	6,898	631【10.1%】	18.2
高等学校	平成28年度	146	70	47.9%	253	40【18.8%】	1.7
	平成29年度	146	113	77.4%	448	195【77.1%】	3.1
	平成30年度	146	129	88.4%	763	315【70.3%】	5.2
特別 学校 支援	平成28年度	42	17	40.5%	112	△15【△11.8%】	2.7
	平成29年度	43	19	44.2%	167	55【49.1%】	3.9
	平成30年度	43	22	51.2%	180	13【7.8%】	4.2
計	平成28年度	1,375	1,117	81.2%	31,617	2,241【7.6%】	23.0
	平成29年度	1,364	1,208	88.6%	35,833	4,216【13.3%】	26.3
	平成30年度	1,362	1,258	92.4%	39,482	3,649【10.2%】	29.0

※高等学校の「公立学校総数」は、県立、市立の全日制128校、定時制17校、通信制1校の合計である。



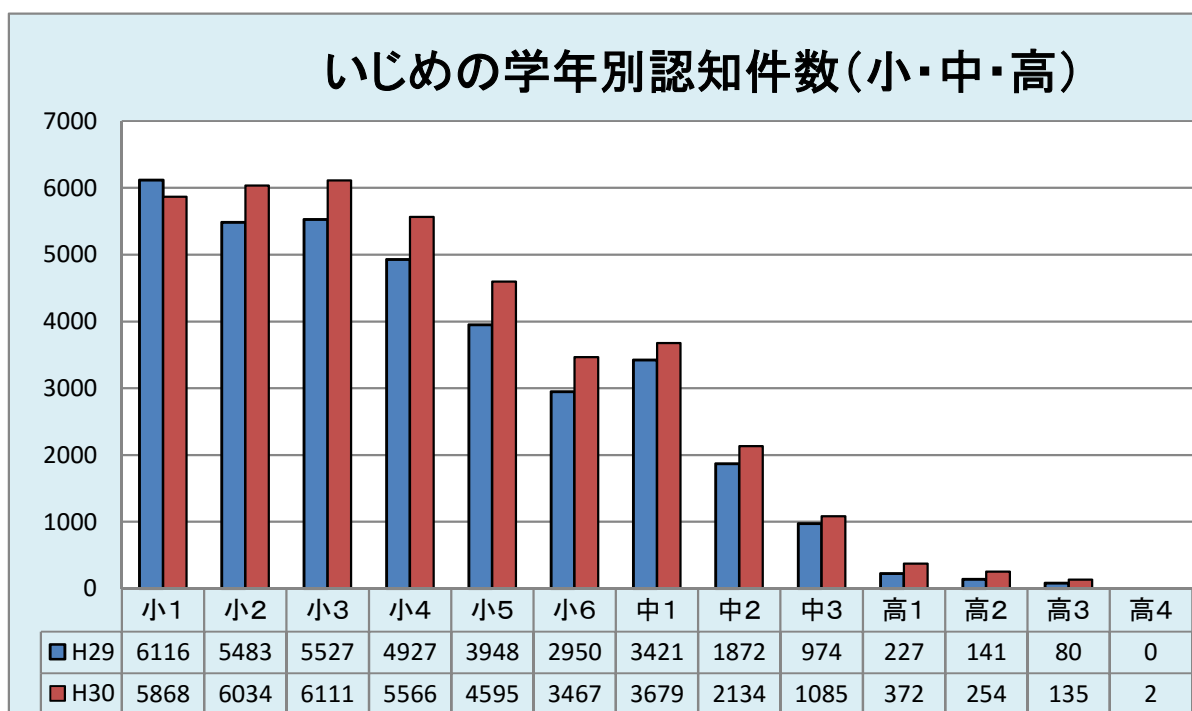
※いじめの定義(平成25年度一部改訂)

本調査において、個々の行為が「いじめ」に当たるか否かの判断は、表面的・形式的に行うことなく、いじめられた児童生徒の立場に立つて行うものとする。  
「いじめ」とは、「児童生徒に対して、当該児童生徒が在籍する学校に在籍している等当該児童生徒と一定の人的関係のある他の児童生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為(インターネットを通じて行われるものを含む。)であって、当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているもの。」とする。なお、起こった場所は学校の内外を問わない。

## 2 いじめの認知件数の学年別, 男女別内訳

(単位: 件)

区分		1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	計	
小学校	男子	3,329	3,276	3,356	3,066	2,597	2,036	17,660	
	女子	2,539	2,758	2,755	2,500	1,998	1,431	13,981	
	小計	5,868	6,034	6,111	5,566	4,595	3,467	31,641	
中学校	男子	2,124	1,191	561	—	—	—	3,876	
	女子	1,555	943	524	—	—	—	3,022	
	小計	3,679	2,134	1,085	—	—	—	6,898	
高等学校	男子	192	136	79	1	—	—	408	
	女子	180	118	56	1	—	—	355	
	小計	372	254	135	2	—	—	763	
特別支援学校	小学部	男子	3	4	6	6	3	10	32
		女子	1	6	2	1	3	3	16
		小計	4	10	8	7	6	13	48
	中学部	男子	7	2	3	—	—	—	12
		女子	4	2	4	—	—	—	10
		小計	11	4	7	—	—	—	22
	高等部	男子	25	31	22	—	—	—	78
		女子	16	10	6	—	—	—	32
		小計	41	41	28	—	—	—	110
特別支援学校計		56	55	43	7	6	13	180	
合計		9,975	8,477	7,374	5,575	4,601	3,480	39,482	

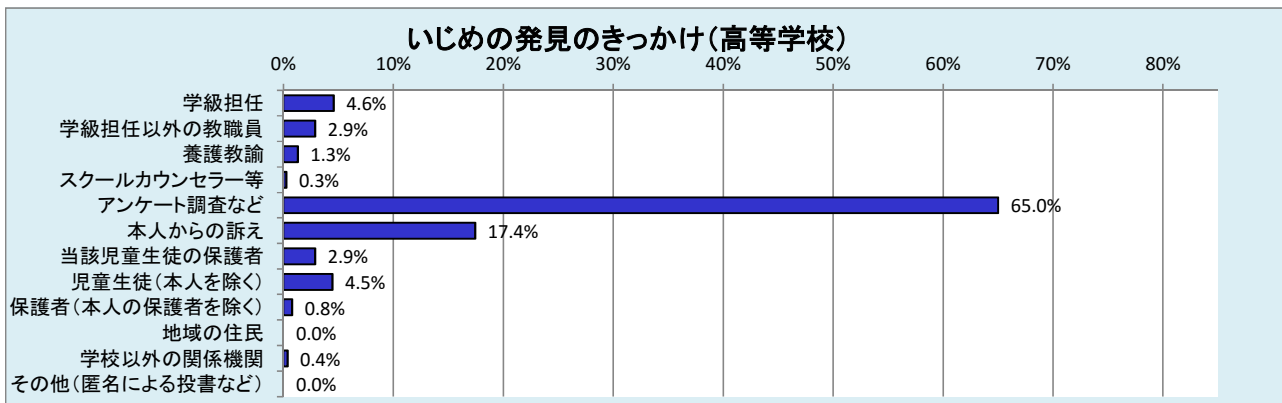
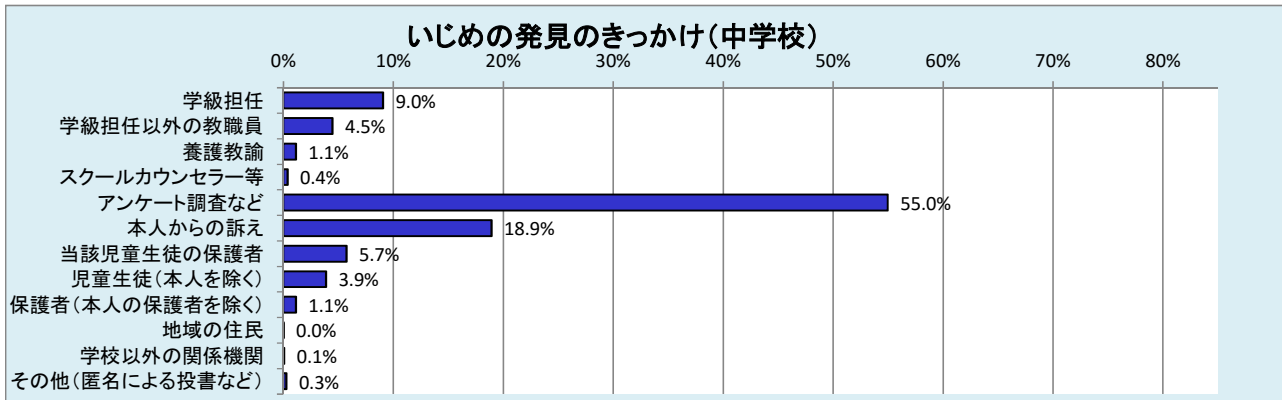
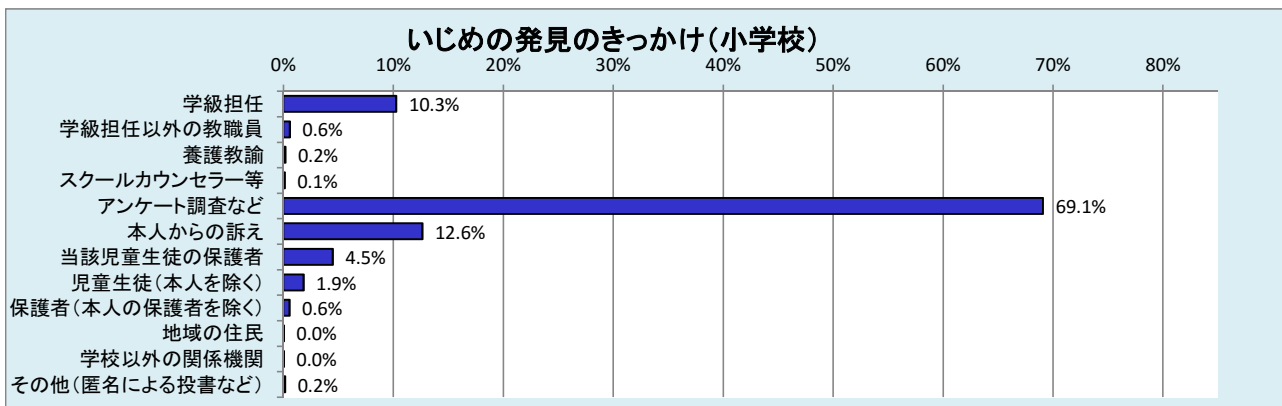


(注)調査では、単位制の高等学校の1年次生は「高1」、2年次生は「高2」、3年次生は「高3」、4年次生以上は「高4」としてそれぞれ計上している。

### 3 いじめの発見のきっかけ

(単位:件)

区 分		小 学 校	中 学 校	高等学校	特別支援学校	計
学校の教職員等が発見		25,391	4,828	565	168	30,952
内 訳	学級担任	3,248	624	35	7	3,914
	学級担任以外の教職員	190	307	22	0	519
	養護教諭	56	78	10	0	144
	スクールカウンセラー等	35	27	2	0	64
	アンケート調査など	21,862	3,792	496	161	26,311
学校の教職員以外からの情報により発見		6,250	2,070	198	12	8,530
内 訳	本人からの訴え	3,997	1,305	133	7	5,442
	当該児童生徒の保護者	1,416	396	22	4	1,838
	児童生徒(本人を除く)	586	267	34	0	887
	保護者(本人の保護者を除く)	176	78	6	1	261
	地域の住民	12	1	0	0	13
	学校以外の関係機関	14	4	3	0	21
	その他(匿名による投書など)	49	19	0	0	68
計		31,641	6,898	763	180	39,482



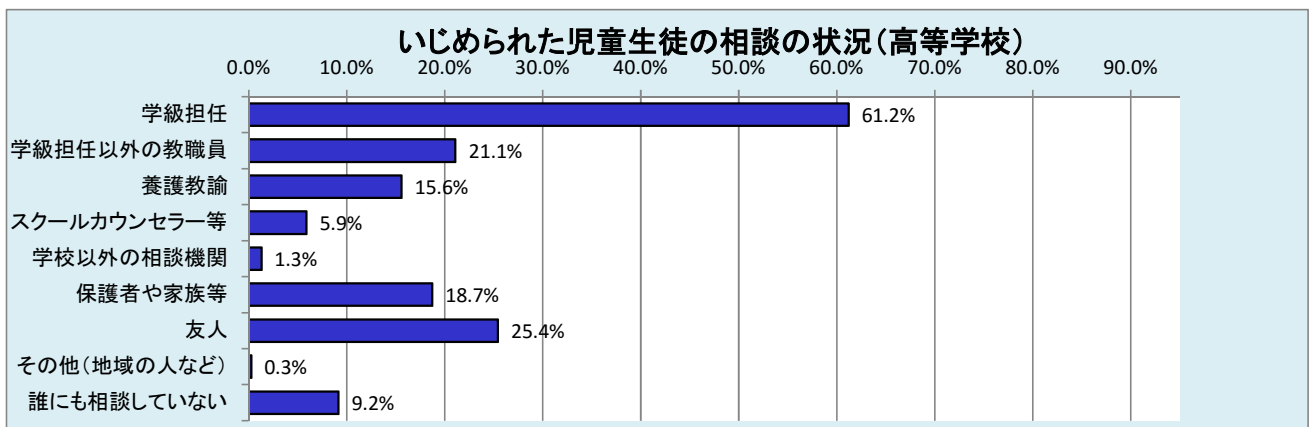
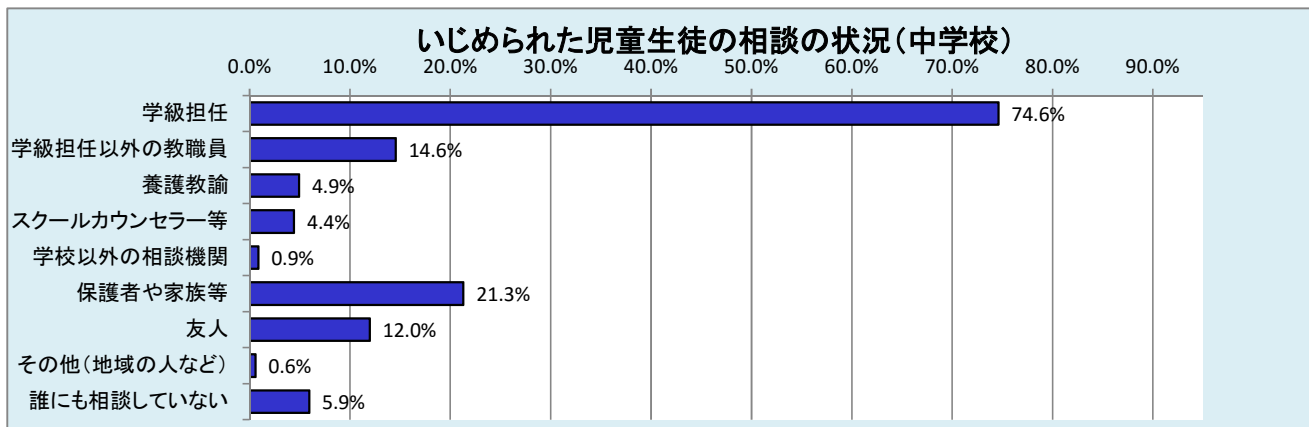
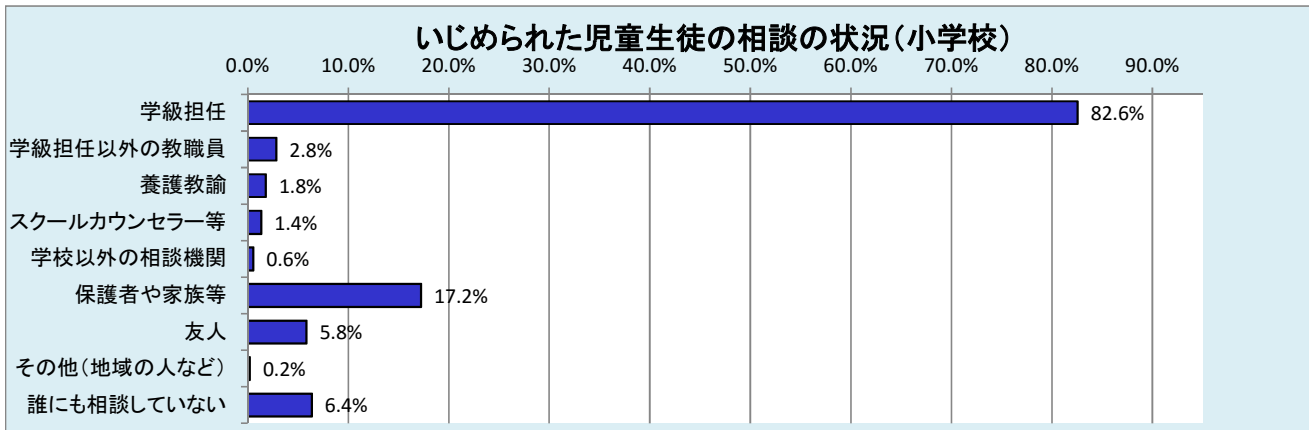
※上記の割合(%)は各学校種ごとのいじめの認知件数に対する割合を示している。  
(認知件数: 小学校31,641件、中学校6,898件、高等学校763件)

#### 4 いじめられた児童生徒の相談の状況

(単位:件)

区分	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	計
学級担任	26,125	5,147	467	171	31,910
学級担任以外の教職員	899	1,004	161	14	2,078
養護教諭	567	340	119	8	1,034
スクールカウンセラー等	430	306	45	0	781
学校以外の相談機関	175	60	10	0	245
保護者や家族等	5,451	1,469	143	15	7,078
友人	1,846	826	194	7	2,873
その他(地域の人など)	62	40	2	0	104
誰にも相談していない	2,015	410	70	3	2,498
計	37,570	9,602	1,211	218	48,601

(注)複数選択を可としている。



※上記の割合(%)は各学校種ごとのいじめの認知件数に対する割合を示している。

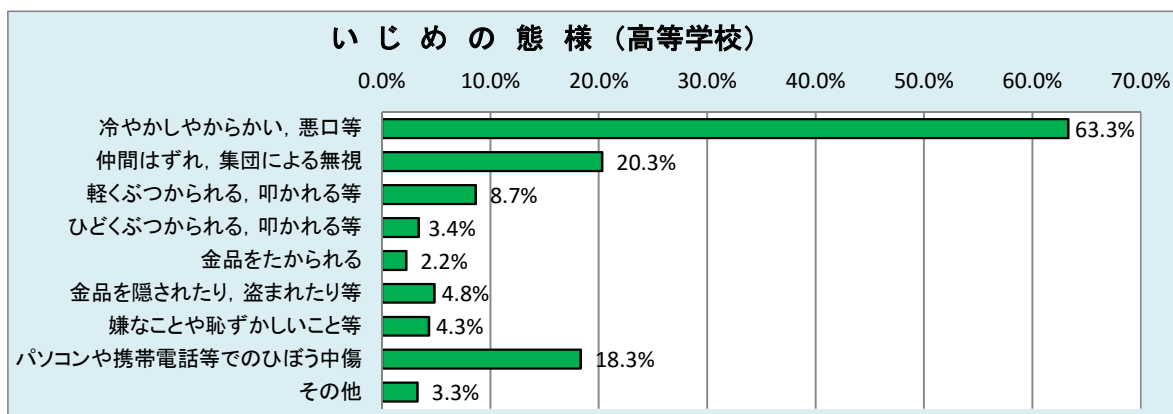
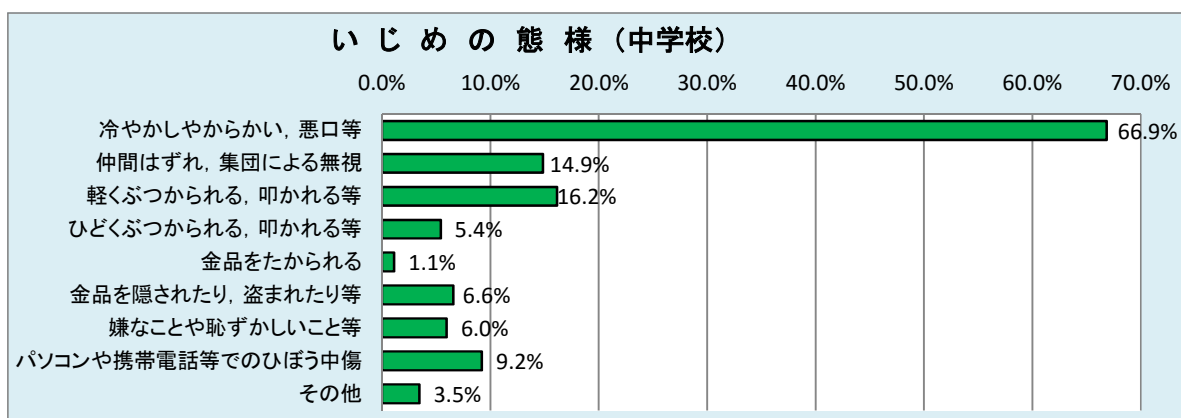
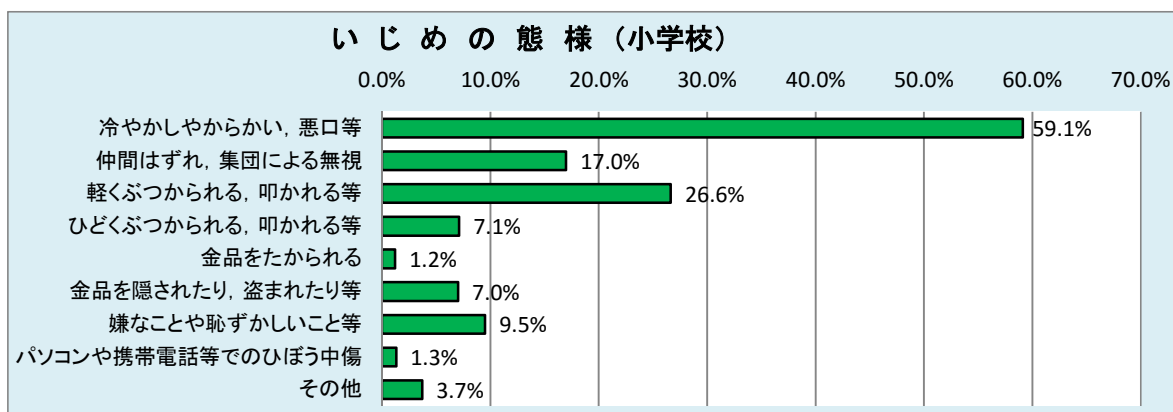
(認知件数:小学校31,641件、中学校6,898件、高等学校763件)

## 5 いじめの態様

(単位:件)

区 分	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	計
冷やかしやからかい, 悪口等	18,706	4,612	483	115	23,916
仲間はずれ, 集団による無視	5,373	1,025	155	10	6,563
軽くぶつかられる, 叩かれる等	8,431	1,115	66	60	9,672
ひどくぶつかられる, 叩かれる等	2,253	374	26	0	2,653
金品をたかられる	381	78	17	7	483
金品を隠されたり, 盗まれたりする等	2,220	454	37	4	2,715
嫌なことや恥ずかしいことをされる等	3,007	411	33	8	3,459
パソコンや携帯電話等でのひぼう中傷	416	636	140	5	1,197
その他	1,173	239	25	17	1,454
計	41,960	8,944	982	226	52,112

(注)複数選択を可としている。



※上記の割合(%)は各学校種ごとのいじめの認知件数に対する割合を示している。

(認知件数: 小学校31,641件、中学校6,898件、高等学校763件)

## 平成30年度 公立小中学校の長期欠席の状況等(千葉県)

### 1-(1)長期欠席者数(在籍者数は、5月1日現在の学校基本調査による)

	在籍者数(5/1現在)	長期欠席者総数	長期欠席率(%)
小学校	312,314	4,627	1.48%
中学校	148,104	7,355	4.97%
合 計	460,418	11,982	2.60%

(注)長期欠席者とは、一つの年度間に連続又は断続して30日以上欠席した者である。

### 1-(2)理由別長期欠席者数

長期欠席の理由	小学校			中学校			合 計		
	総数	出現率(%)	割合(%)	総数	出現率(%)	割合(%)	総数	出現率(%)	割合(%)
病 気	1,739	0.56%	37.58%	1,819	1.23%	24.73%	3,558	0.77%	29.69%
経済的理由	0	0.00%	0.00%	0	0.00%	0.00%	0	0.00%	0.00%
不登校	2,016	0.65%	43.57%	5,100	3.44%	69.34%	7,116	1.55%	59.39%
その他	872	0.28%	18.85%	436	0.29%	5.93%	1,308	0.28%	10.92%
合 計	4,627	1.48%	100%	7,355	4.97%	100%	11,982	2.60%	100%

(注1)出現率とは、理由別長期欠席者数の全生徒数に対する割合である。

(注2)割合とは、理由別長期欠席者数の合計に占める割合である。

(注3)欠席理由が2つ以上あるときは、主な理由を1つ選び記入する。

### 2 不登校生徒における前年度の不登校の有無

	有	無	合 計
小学校	898	1,118	2,016
中学校	3,016	2,084	5,100
合 計	3,914	3,202	7,116

(注)小学校1年104名については入学前の調査はしていない。

### 3 小・中学校における不登校児童生徒数の変遷

区分	年度	学校数	全児童生徒数 (人)	不登校児童生 徒数(人)	前年度との不 登校数の差 (人)	全児童生徒に 対する割合 (%)	前年度との割 合の差
小 学 校	平成20年度	850	334,308	811		0.24%	
	平成21年度	845	333,929	852	41	0.26%	0.02
	平成22年度	847	333,188	871	19	0.26%	0.00
	平成23年度	838	331,232	898	27	0.27%	0.01
	平成24年度	837	325,557	856	-42	0.26%	-0.01
	平成25年度	828	322,121	1,086	230	0.34%	0.08
	平成26年度	820	319,190	1,158	72	0.36%	0.02
	平成27年度	810	316,855	1,233	75	0.39%	0.03
	平成28年度	806	314,710	1,456	223	0.46%	0.07
	平成29年度	796	312,913	1,606	150	0.51%	0.05
	平成30年度	794	312,314	2,016	410	0.65%	0.14
中 学 校	平成20年度	385	151,289	4,340		2.87%	
	平成21年度	383	153,337	4,247	-93	2.77%	-0.10
	平成22年度	383	152,764	4,182	-65	2.74%	-0.03
	平成23年度	382	154,643	3,879	-303	2.51%	-0.23
	平成24年度	383	154,563	3,734	-145	2.42%	-0.09
	平成25年度	382	155,022	3,884	150	2.51%	0.09
	平成26年度	382	154,662	3,963	79	2.56%	0.05
	平成27年度	381	154,585	4,160	197	2.69%	0.13
	平成28年度	381	153,293	4,191	31	2.73%	0.04
	平成29年度	379	151,710	4,637	446	3.06%	0.33
	平成30年度	379	148,104	5,100	463	3.44%	0.38
合 計	平成20年度	1235	485,597	5,151		1.06%	
	平成21年度	1228	487,266	5,099	-52	1.05%	-0.01
	平成22年度	1230	485,952	5,053	-46	1.04%	-0.01
	平成23年度	1220	485,875	4,777	-276	0.98%	-0.06
	平成24年度	1220	480,120	4,590	-187	0.96%	-0.02
	平成25年度	1210	477,143	4,970	380	1.04%	0.08
	平成26年度	1202	473,852	5,121	151	1.08%	0.04
	平成27年度	1191	471,440	5,393	272	1.14%	0.06
	平成28年度	1187	468,003	5,647	254	1.21%	0.07
	平成29年度	1175	464,623	6,243	596	1.34%	0.13
	平成30年度	1173	460,418	7,116	873	1.55%	0.21



## 4 学年別不登校児童生徒数

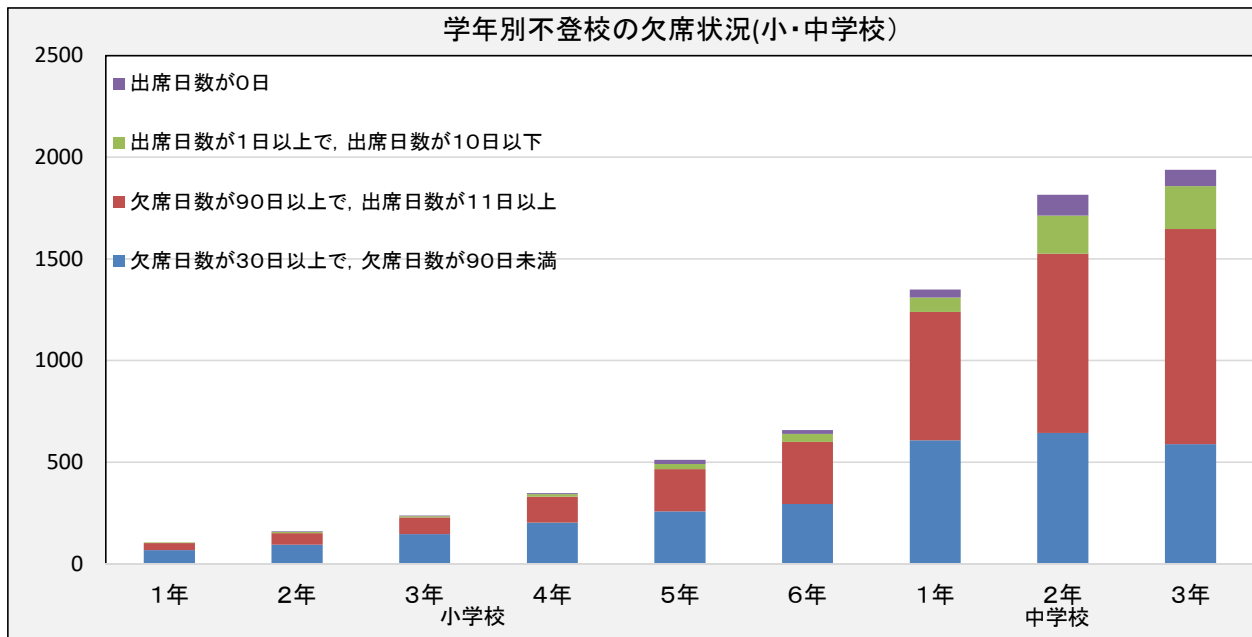
### (1) 小学校

区分	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
不登校児童数	104	159(66)	237(95)	347(150)	511(246)	658(341)	2,016(898)
うち、90日以上欠席	37	66	91	145	253	364	956
うち、出席日数が10日以下	3	8	9	17	46	59	142
うち、出席日数が0日	0	3	4	5	20	20	52

### (2) 中学校

区分	1年	2年	3年	合計
不登校生徒数	1,348(515)	1,815(1,092)	1,937(1,409)	5,100(3,016)
うち、90日以上欠席	741	1,172	1,349	3,262
うち、出席日数が10日以下	110	290	290	690
うち、出席日数が0日	38	103	80	221

※( )内は前年度から不登校の状態(30日以上)が継続している児童生徒の人数。中学校1年については平成28年度における小学校6年の不登校児童生徒の人数。



## 5 不登校児童生徒の在籍学校数

区分	学校総数(校)	不登校在籍学校数(校)
小学校	794	566
中学校	379	368
合計	1,173	934

## 6 不登校児童生徒への指導結果状況

区分	小学校	中学校	計
	人数 %	人数 %	人数 %
指導の結果登校する又はできるようになった児童生徒	483 24.0%	1,244 24.4%	1,727 24.3%
指導中の児童生徒	1,533 76.0%	3,856 75.6%	5,389 75.7%
うち継続した登校には至らないものの好ましい変化が見られるようになった児童生徒	425 21.1%	1,244 24.4%	1,669 23.5%
合計	2,016	5,100	7,116

## 7 不登校の要因

### (1) 小学校

本人に係る要因 (分類)	学校・家庭に係る要因 (区分)	分類別児童数	学校に係る状況								家庭に係る状況	左記に該当なし
			いじめ	いじめを除く友人関係をめぐる問題	教職員との関係をめぐる問題	学業の不振	進路に係る不安	クラブ活動・部活動等への不適応	学校のきまり等をめぐる問題	進入学、転編入学時の不適応		
「学校における人間関係」に課題を抱えている。		350	2	243	53	23	3	1	8	13	39	10
	—	—	0.6%	69.4%	15.1%	6.6%	0.9%	0.3%	2.3%	3.7%	11.1%	2.9%
	17.4%	66.7%	49.3%	57.6%	9.7%	12.0%	12.5%	16.7%	14.4%	4.2%	3.2%	
「あそび・非行」の傾向がある。		17	0	1	0	4	0	0	0	0	10	2
	—	—	0.0%	5.9%	0.0%	23.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	58.8%	11.8%
	0.8%	0.0%	0.2%	0.0%	1.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%	0.6%	
「無気力」の傾向がある。		620	1	31	12	116	7	4	14	16	389	84
	—	—	0.2%	5.0%	1.9%	18.7%	1.1%	0.6%	2.3%	2.6%	62.7%	13.5%
	30.8%	33.3%	6.3%	13.0%	49.2%	28.0%	50.0%	29.2%	17.8%	41.9%	27.2%	
「不安」の傾向がある。		620	0	198	23	81	13	3	21	52	222	94
	—	—	0.0%	31.9%	3.7%	13.1%	2.1%	0.5%	3.4%	8.4%	35.8%	15.2%
	30.8%	0.0%	40.2%	25.0%	34.3%	52.0%	37.5%	43.8%	57.8%	23.9%	30.4%	
「その他」		409	0	20	4	12	2	0	5	9	269	119
	—	—	0.0%	4.9%	1.0%	2.9%	0.5%	0.0%	1.2%	2.2%	65.8%	29.1%
	20.3%	0.0%	4.1%	4.3%	5.1%	8.0%	0.0%	10.4%	10.0%	29.0%	38.5%	
計		2,016	3	493	92	236	25	8	48	90	929	309
	100%	100%	0.1%	24.5%	4.6%	11.7%	1.2%	0.4%	2.4%	4.5%	46.1%	15.3%

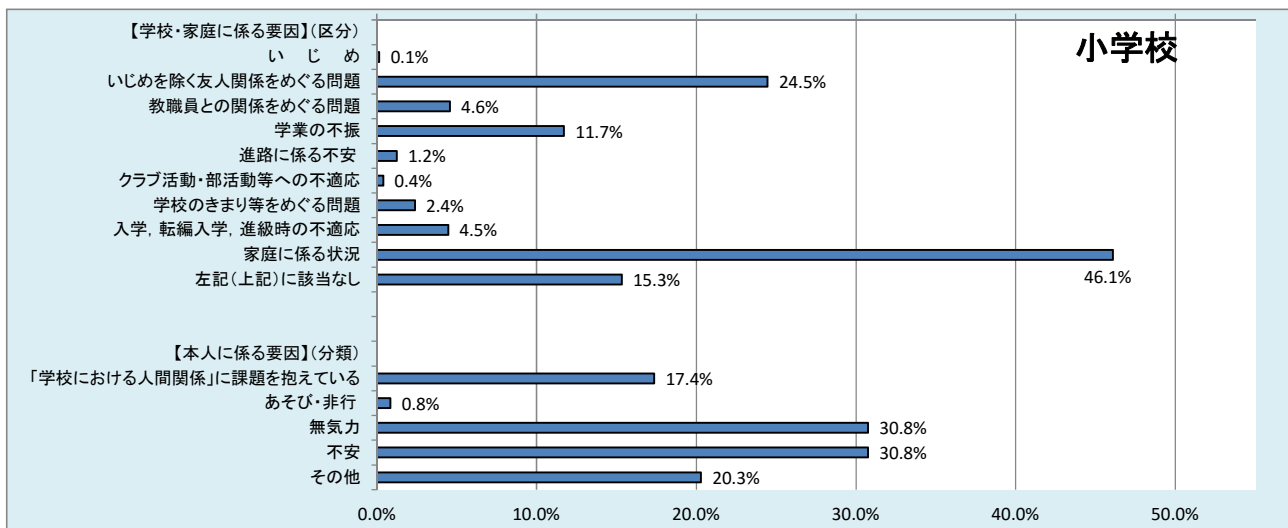
(注1) 「本人に係る要因(分類)」については、「長期欠席者の状況」で「不登校」と回答した児童全員につき、主たる要因一つを選択。

(注2) 「学校・家庭に係る要因(区分)」については、複数回答可。「本人に係る要因(分類)」で回答した要因の理由として考えられるものを「学校に係る状況」「家庭に係る状況」より全て選択。なお、学校及び家庭に係る状況に当てはまるものがない場合は、左記に該当なしを選択。

(注3) 「家庭に係る状況」とは、家庭の生活環境の急激な変化、親子関係をめぐる問題、家庭内の不和等が該当する。

(注4) 中段は、各区分における「分類別児童」に対する割合。下段は、各区分における「学校・家庭に係る要因(区分)」の「計」に対する割合。

(注5) 分類の「その他」については、本人や保護者と話をしても上記傾向が見えず、理由がはっきりしないもの。



(2) 中学校

本人に係る要因 (分類)	学校・家庭に係る要因 (区分)	分類別 生徒数	学校に係る状況							家庭に係る状況	左記に該当なし	
			いじめ	いじめを除く友人関係をめぐり問題	教職員との関係をめぐり問題	学業の不振	進路に係る不安	クラブ活動・部活動等への不適応	学校のきまり等をめぐり問題			進級時、転編入学、進級時の不適応
「学校における人間関係」に課題を抱えている。		1,221	7	900	44	128	19	26	12	73	95	41
	—		0.6%	73.7%	3.6%	10.5%	1.6%	2.1%	1.0%	6.0%	7.8%	3.4%
	23.9%	77.8%	52.2%	44.9%	10.9%	8.4%	29.5%	10.9%	19.3%	7.4%	6.9%	
「あそび・非行」の傾向がある。		197	0	19	6	47	8	3	32	1	106	18
	—		0.0%	9.6%	3.0%	23.9%	4.1%	1.5%	16.2%	0.5%	53.8%	9.1%
	3.9%	0.0%	1.1%	6.1%	4.0%	3.5%	3.4%	29.1%	0.3%	8.2%	3.0%	
「無気力」の傾向がある。		1,525	1	190	12	557	77	26	32	108	492	195
	—		0.1%	12.5%	0.8%	36.5%	5.0%	1.7%	2.1%	7.1%	32.3%	12.8%
	29.9%	11.1%	11.0%	12.2%	47.6%	34.1%	29.5%	29.1%	28.5%	38.1%	32.8%	
「不安」の傾向がある。		1,511	1	542	33	382	105	22	28	140	326	132
	—		0.1%	35.9%	2.2%	25.3%	6.9%	1.5%	1.9%	9.3%	21.6%	8.7%
	29.6%	11.1%	31.5%	33.7%	32.6%	46.5%	25.0%	25.5%	36.9%	25.3%	22.2%	
「その他」		646	0	72	3	56	17	11	6	57	271	209
	—		0.0%	11.1%	0.5%	8.7%	2.6%	1.7%	0.9%	8.8%	42.0%	32.4%
	12.7%	0.0%	4.2%	3.1%	4.8%	7.5%	12.5%	5.5%	15.0%	21.0%	35.1%	
計		5,100	9	1,723	98	1,170	226	88	110	379	1,290	595
	100%	0.2%	33.8%	1.9%	22.9%	4.4%	1.7%	2.2%	7.4%	25.3%	11.7%	

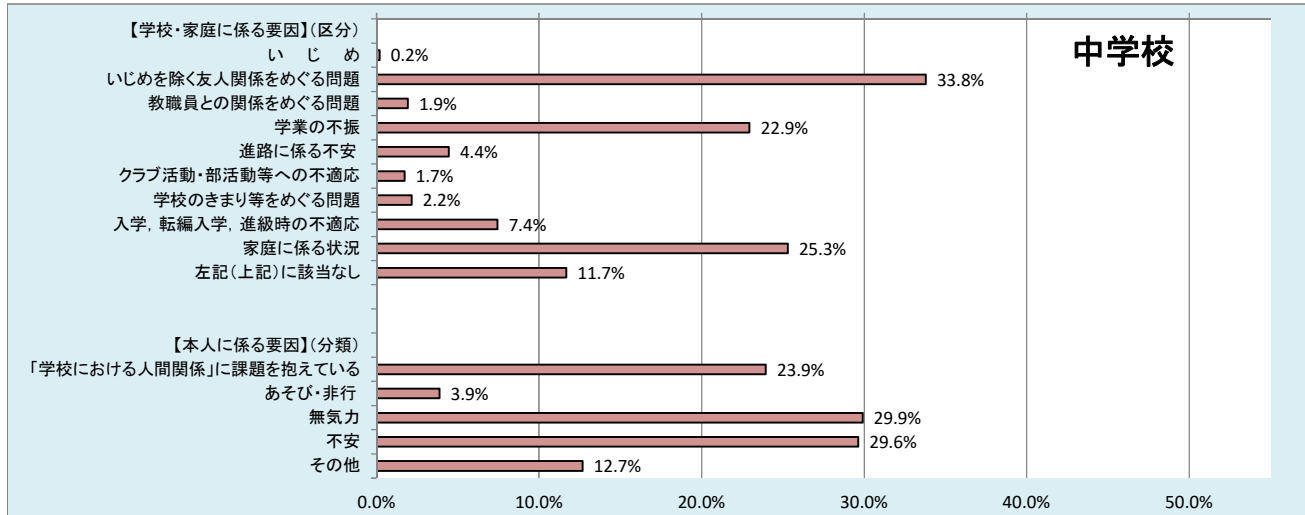
(注1) 「本人に係る要因(分類)」については、「長期欠席者の状況」で「不登校」と回答した生徒全員につき、主たる要因一つを選択。

(注2) 「学校・家庭に係る要因(区分)」については、複数回答可。「本人に係る要因(分類)」で回答した要因の理由として考えられるものを「学校に係る状況」「家庭に係る状況」より全て選択。なお、学校及び家庭に係る状況に当てはまるものがない場合は、左記に該当なしを選択。

(注3) 「家庭に係る状況」とは、家庭の生活環境の急激な変化、親子関係をめぐり問題、家庭内の不和等が該当する。

(注4) 中段は、各区分における「分類別生徒数」に対する割合。下段は、各区分における「学校・家庭に係る要因(区分)」の「計」に対する割合。

(注5) 分類の「その他」については、本人や保護者と話をしても上記傾向が見えず、理由がはっきりしないもの。



## 8 相談・指導等を受けた学校内外の機関等

区分	小学校					中学校					計					
	人数	割合(%)	指導要録上出席扱いとなった人数	出席扱いにした学校数(実数)	通学定期乗車券制度適用人数	人数	割合(%)	指導要録上出席扱いとなった人数	出席扱いにした学校数(実数)	通学定期乗車券制度適用人数	人数	割合(%)	指導要録上出席扱いとなった人数	出席扱いにした学校数(実数)	通学定期乗車券制度適用人数	
学 校	(1)①～⑦の機関等での相談・指導等を受けた実人数	745	37.0%	308	179	1,360	26.7%	905	233	2,105	29.6%	1,213	412			
	① 教育支援センター(適応指導教室)	235	11.7%	181	120	6	551	③ 10.8%	512	186	17	786	③ 11.0%	693	306	23
	② 教育委員会及び教育センター等教育委員会所管の機関(①を除く)	288	③ 14.3%	113	69	2	419	8.2%	305	100	6	707	9.9%	418	169	8
	③ 児童相談所、福祉事務所	96	4.8%	25	14		99	1.9%	50	39		195	2.7%	75	53	
	④ 保健所、精神保健福祉センター	5	0.2%	0	0		9	0.2%	1	1		14	0.2%	1	1	
	⑤ 病院、診療所	138	6.8%	18	13		222	4.4%	22	11		360	5.1%	40	24	
	⑥ 民間団体、民間施設	63	3.1%	23	16	1	105	2.1%	84	54	11	168	2.4%	107	70	12
	⑦ 上記以外の機関等	52	2.6%	12	9		59	1.2%	16	14		111	1.6%	28	23	
	(2)①～⑦の機関等での相談・指導等を受けていない人数	1271	63.0%				3,740	73.3%				5,011	70.4%			
	(3) (1)、(2)の合計	2,016	100%				5,100	100%				7,116	100%			
学 校 内	(4)⑧、⑨による相談・指導等を受けた実人数	845	41.9%			2,229	43.7%				3,074	43.2%				
	⑧ 養護教諭による専門的な指導を受けた人数	394	② 19.5%			932	② 18.3%				1,326	② 18.6%				
	⑨ スクールカウンセラー、相談員等による専門的な相談を受けた人数	648	① 32.1%			1,733	① 34.0%				2,381	① 33.5%				
	(5)上記⑧、⑨による相談・指導等を受けていない人数	1,171	58.1%			2,871	56.3%				4,042	56.8%				
	(6) (4)、(5)の合計	2,016	100%			5,100	100%				7,116	100%				
(7)上記①～⑦、⑧、⑨による相談・指導等を受けていない人数	524	26.0%			1,532	30.0%				2,056	28.9%					

(注)複数回答を可としている。上記の割合(%)は不登校児童生徒数に対する割合を示している。  
(不登校児童生徒数:小学校 2,016人、中学校 5,100人、合計 7,116人)

## 平成30年度 公立高等学校の長期欠席の状況等(千葉県)

### 1-(1)長期欠席者数(在籍者数は、5月1日現在の学校基本調査による)

	在籍者数(5/1現在)	長期欠席者総数	前年度増減	長期欠席率(%)	前年比
全日制	99,665	2,366	73	2.37%	0.09%
定時制	2,731	934	-22	34.20%	0.70%
合計	102,396	3,300	51	3.22%	0.08%

(注)長期欠席者とは、一つの年度間に連続又は断続して30日以上欠席した者である。

### 1-(2)理由別長期欠席者数

長期欠席の理由	全日制			定時制			全定合計		
	総数	出現率(%)	割合(%)	総数	出現率(%)	割合(%)	総数	出現率(%)	割合(%)
病気	350	0.35%	14.79%	45	1.65%	4.82%	395	0.39%	11.97%
経済的理由	10	0.01%	0.42%	41	1.50%	4.39%	51	0.05%	1.55%
不登校	1,914	1.92%	80.90%	741	27.13%	79.34%	2,655	2.59%	80.45%
その他	92	0.09%	3.89%	107	3.92%	11.46%	199	0.19%	6.03%
合計	2,366	2.37%	100%	934	34.20%	100%	3,300	3.22%	100%

(注1)出現率とは、理由別長期欠席者数の全生徒数に対する割合である。

(注2)割合とは、理由別長期欠席者数の合計に占める割合である。

(注3)欠席理由が2つ以上あるときは、主な理由を1つ選び記入する。

### 2 不登校生徒における前年度の不登校の有無

	有	無	その他	合計
全日制	324	1,590	0	1,914
定時制	487	254	0	741
合計	811	1,844	0	2,655

(注)「その他」は、不登校生徒のうち前年度の不登校の状況が確認できなかった者である。

### 3-（1）課程別不登校生徒数

	全 日 制		定 時 制		全 定 合 計	
	不登校生徒数	出現率(%)	不登校生徒数	出現率(%)	不登校生徒数	出現率(%)
1学年	461	1.74%	/		461	1.74%
2学年	617	2.33%	/		617	2.33%
3学年	563	2.09%	/		563	2.09%
単位制	273	1.38%	741	27.13%	1,014	4.49%
合 計	1,914	1.92%	741	27.13%	2,655	2.59%

### 3-（2）課程別不登校生徒欠席状況

区 分	全 日 制				定時制 (単位制)	全定合計
	1年	2年	3年	単位制		
不登校生徒数	461	617	563	273	741	2,655
うち、90日以上欠席	54	55	16	38	199	362
うち、出席日数が10日以下	8	11	2	9	58	88
うち、出席日数が0日	0	4	1	5	13	23

### 3-（3）不登校生徒のうち中途退学・原級留置になった生徒数

	不登校生徒数	中途退学者数	中途退学率(%)	原級留置者数	原級留置率(%)
全 日 制	1,914	425	22.20%	43	2.25%
定 時 制	741	144	19.43%	/	
合 計	2,655	569	21.43%	43	1.62%

### 3-（4）不登校生徒への指導結果状況

区 分		全 日 制	定 時 制	全 定 合 計
		人数 %	人数 %	人数 %
指導の結果登校する又はできるようになった生徒		850	195	1,045
		44.4%	26.3%	39.4%
指導中の生徒		1,064	546	1,610
		55.6%	73.7%	60.6%
うち継続した登校には至らないものの好ましい変化が見られるようになった生徒	209	62	271	
	10.9%	8.4%	10.2%	
合 計		1,914	741	2,655

## 4 不登校の要因

(1)高校:全日制

本人に係る要因 (分類)	学校・家庭に係る要因 (区分)	分類別生徒数	学校に係る状況							家庭に係る状況	左記に該当なし	
			いじめ	いじめを除く友人関係	教職員との関係	学業の不振	進路に係る不安	クラブ活動・部活動への不適応	学校のきまり等をめぐる問題			入学・転編入学・進級時の不適応
「学校における人間関係」に課題を抱えている。		350	5	212	5	47	5	18	7	43	16	4
	—	—	1.4%	60.6%	1.4%	13.4%	1.4%	5.1%	2.0%	12.3%	4.6%	1.1%
	18.3%	100.0%	57.1%	6.5%	8.8%	2.7%	45.0%	9.6%	15.1%	6.5%	1.5%	
「あそび・非行」の傾向がある。		252	0	24	12	109	19	3	45	32	35	27
	—	—	0.0%	9.5%	4.8%	43.3%	7.5%	1.2%	17.9%	12.7%	13.9%	10.7%
	13.2%	0.0%	6.5%	15.6%	20.4%	10.1%	7.5%	61.6%	11.3%	14.2%	10.2%	
「無気力」の傾向がある。		849	0	70	41	313	77	15	18	158	98	132
	—	—	0.0%	8.2%	4.8%	36.9%	9.1%	1.8%	2.1%	18.6%	11.5%	15.5%
	44.4%	0.0%	18.9%	53.2%	58.5%	41.0%	37.5%	24.7%	55.6%	39.8%	49.6%	
「不安」の傾向がある。		339	0	60	18	56	76	4	1	43	71	37
	—	—	0.0%	17.7%	5.3%	16.5%	22.4%	1.2%	0.3%	12.7%	20.9%	10.9%
	17.7%	0.0%	16.2%	23.4%	10.5%	40.4%	10.0%	1.4%	15.1%	28.9%	13.9%	
「その他」		124	0	5	1	10	11	0	2	8	26	66
	—	—	0.0%	4.0%	0.8%	8.1%	8.9%	0.0%	1.6%	6.5%	21.0%	53.2%
	6.5%	0.0%	1.3%	1.3%	1.9%	5.9%	0.0%	2.7%	2.8%	10.6%	24.8%	
計		1,914	5	371	77	535	188	40	73	284	246	266
		100%	0.3%	19.4%	4.0%	28.0%	9.8%	2.1%	3.8%	14.8%	12.9%	13.9%

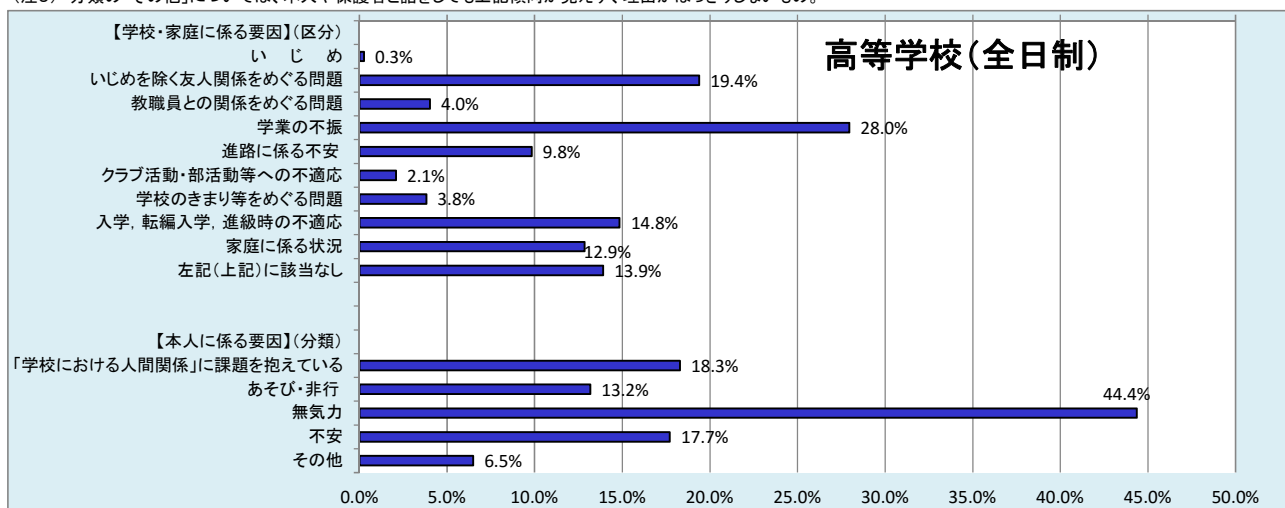
(注1) 「本人に係る要因(分類)」については、「長期欠席者の状況」で「不登校」と回答した生徒全員につき、主たる要因一つを選択。

(注2) 「学校・家庭に係る要因(区分)」については、複数回答可。「本人に係る要因(分類)」で回答した要因の理由として考えられるものを「学校に係る状況」「家庭に係る状況」より全て選択。なお、学校及び家庭に係る状況に当てはまるものがない場合は、左記に該当なしを選択。

(注3) 「家庭に係る状況」とは、家庭の生活環境の急激な変化、親子関係をめぐる問題、家庭内の不和等が該当する。

(注4) 中段は、各区分における「分類別生徒数」に対する割合。下段は、各区分における「学校・家庭に係る要因(区分)」の「計」に対する割合。

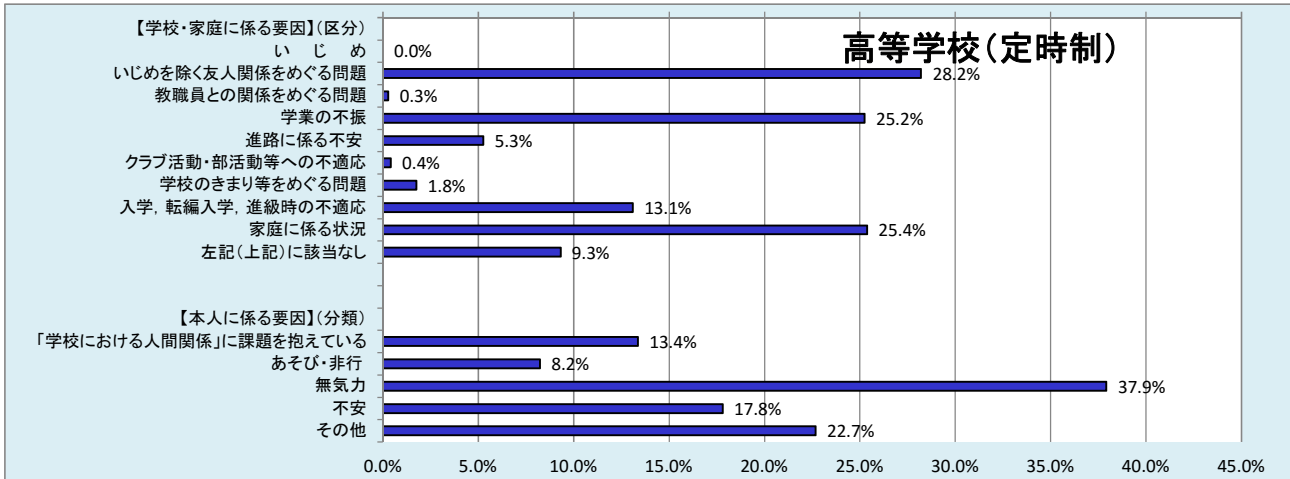
(注5) 分類の「その他」については、本人や保護者と話をしても上記傾向が見えず、理由がはっきりしないもの。



(2) 高校: 定時制

本人に係る要因 (分類)	学校・家庭に係る要因 (区分)	分類別生徒数	学校に係る状況								家庭に係る状況	左記に該当なし
			いじめ	いじめを除く友人関係	め教職員との関係を	学業の不振	進路に係る不安	クラブ活動・部活動への不適応	学校のきまり等を	進級時、転編入学、		
「学校における人間関係」に課題を抱えている。		99	0	91	0	9	1	3	1	5	1	1
	—		0.0%	91.9%	0.0%	9.1%	1.0%	3.0%	1.0%	5.1%	1.0%	1.0%
	<b>13.4%</b>	0.0%	43.5%	0.0%	4.8%	2.6%	100.0%	7.7%	5.2%	0.5%	1.4%	
「あそび・非行」の傾向がある。		61	0	17	0	21	0	0	2	4	15	9
	—		0.0%	27.9%	0.0%	34.4%	0.0%	0.0%	3.3%	6.6%	24.6%	14.8%
	<b>8.2%</b>	0.0%	8.1%	0.0%	11.2%	0.0%	0.0%	15.4%	4.1%	8.0%	13.0%	
「無気力」の傾向がある。		281	0	47	1	82	12	0	8	54	81	30
	—		0.0%	16.7%	0.4%	29.2%	4.3%	0.0%	2.8%	19.2%	28.8%	10.7%
	<b>37.9%</b>	0.0%	22.5%	50.0%	43.9%	30.8%	0.0%	61.5%	55.7%	43.1%	43.5%	
「不安」の傾向がある。		132	0	45	1	22	22	0	1	25	20	2
	—		0.0%	34.1%	0.8%	16.7%	16.7%	0.0%	0.8%	18.9%	15.2%	1.5%
	<b>17.8%</b>	0.0%	21.5%	50.0%	11.8%	56.4%	0.0%	7.7%	25.8%	10.6%	2.9%	
「その他」		168	0	9	0	53	4	0	1	9	71	27
	—		0.0%	5.4%	0.0%	31.5%	2.4%	0.0%	0.6%	5.4%	42.3%	16.1%
	<b>22.7%</b>	0.0%	4.3%	0.0%	28.3%	10.3%	0.0%	7.7%	9.3%	37.8%	39.1%	
計		741	0	209	2	187	39	3	13	97	188	69
		<b>100%</b>	<b>0.0%</b>	<b>28.2%</b>	<b>0.3%</b>	<b>25.2%</b>	<b>5.3%</b>	<b>0.4%</b>	<b>1.8%</b>	<b>13.1%</b>	<b>25.4%</b>	<b>9.3%</b>

- (注1) 「本人に係る要因(分類)」については、「長期欠席者の状況」で「不登校」と回答した生徒全員につき、主たる要因一つを選択。
- (注2) 「学校・家庭に係る要因(区分)」については、複数回答可。「本人に係る要因(分類)」で回答した要因の理由として考えられるものを「学校に係る状況」「家庭に係る状況」より全て選択。なお、学校及び家庭に係る状況に当てはまるものがない場合は、左記に該当なしを選択。
- (注3) 「家庭に係る状況」とは、家庭の生活環境の急激な変化、親子関係をめぐる問題、家庭内の不和等が該当する。
- (注4) 中段は、各区分における「分類別生徒数」に対する割合。下段は、各区分における「学校・家庭に係る要因(区分)」の「計」に対する割合。
- (注5) 分類の「その他」については、本人や保護者と話をしても上記傾向が見えず、理由がはっきりしないもの。





5 相談・指導等を受けた学校内外の機関等

区 分		全 日 制		定 時 制		全 定 合 計	
		総数	割合 (%)	総数	割合 (%)	総数	割合 (%)
学 校 外	(1)①～⑦の機関等での相談・指導等を受けた実人数	193	10.1%	40	5.4%	233	8.8%
	指導要録上出席扱いとなった実人数	14		6		20	
	①教育支援センター(適応指導教室)	7	0.4%	0	0.0%	7	0.3%
	指導要録上出席扱いとなった人数	0		0		0	
	②教育センター等教育委員会所管の機関(①を除く)	16	0.8%	1	0.1%	17	0.6%
	指導要録上出席扱いとなった人数	2		1		3	
	③児童相談所, 福祉事務所	22	1.1%	15	2.0%	37	1.4%
	指導要録上出席扱いとなった人数	8		3		11	
	④保健所, 精神保健福祉センター	5	0.3%	0	0.0%	5	0.2%
	指導要録上出席扱いとなった人数	0		0		0	
	⑤病院, 診療所	138	③ 7.2%	20	③ 2.7%	158	③ 6.0%
	指導要録上出席扱いとなった人数	12		4		16	
	⑥民間団体, 民間施設	4	0.2%	0	0.0%	4	0.2%
	指導要録上出席扱いとなった人数	2		0		2	
⑦上記以外の機関等	7	0.4%	5	0.7%	12	0.5%	
指導要録上出席扱いとなった人数	0		2		2		
(2)①～⑦の機関等での相談・指導等を受けていない人数	1,661	86.8%	684	92.3%	2,345	88.3%	
(3)不明	60	3.1%	17	2.3%	77	2.9%	
(4) (1)～(3)の合計	1,914	100%	741	100%	2,655	100%	
学 校 内	(5) ⑧, ⑨による相談・指導等を受けた実人数	713	37.3%	174	23.5%	887	33.4%
	⑧養護教諭による専門的な指導を受けた人数	458	① 23.9%	74	② 10.0%	532	① 20.0%
	⑨スクールカウンセラー, 相談員等による専門的な相談を受けた人数	411	② 21.5%	111	① 15.0%	522	② 19.7%
	(6)上記⑧, ⑨による相談・指導等を受けていない人数	1,201	62.7%	567	76.5%	1,768	66.6%
	(7) (5), (6)の合計	1,914	100%	741	100%	2,655	100%

(注)複数回答を可としている。上記の割合(%)は不登校生徒数に対する割合を示している。

(不登校生徒数:全日制 1,914人、定時制 741人、合計 2,655人)

## 平成30年度 公立高等学校の中途退学者数等の状況(千葉県)

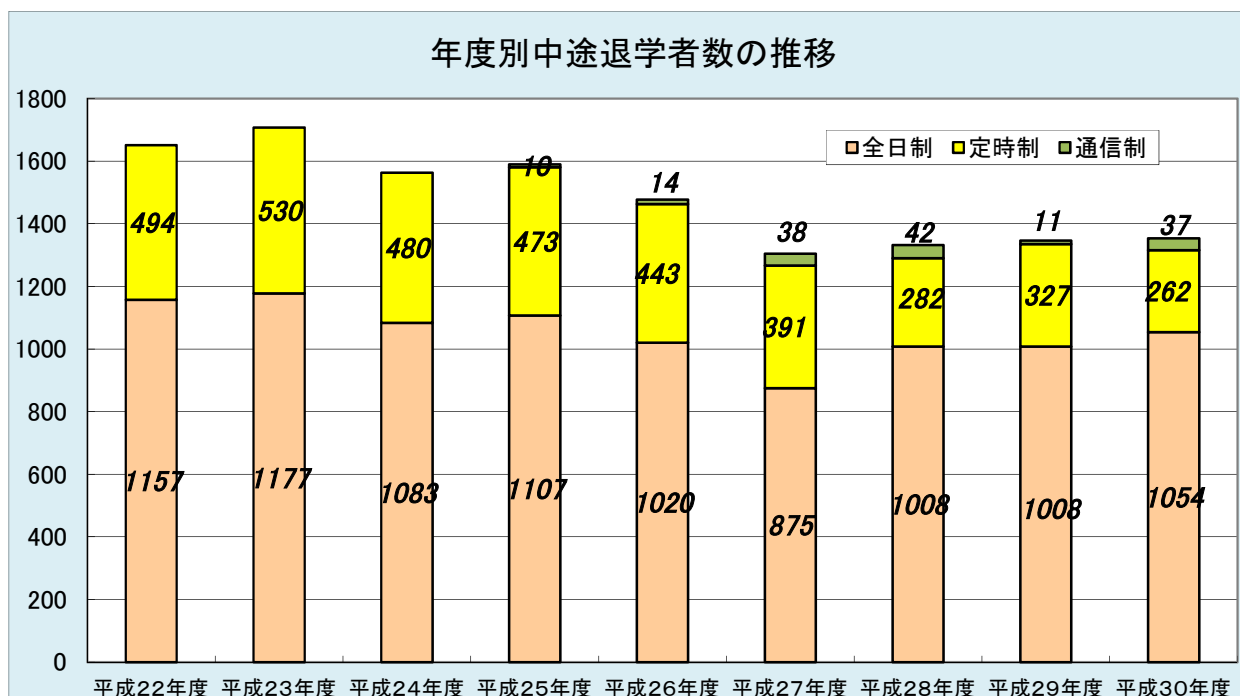
### 1-(1) 中途退学者数(在籍者数は、4月1日現在による)

	在籍者数(4/1現在)	中途退学者総数	前年度増減	中退率(%)	前年比
全日制	99,700	1,054	46	1.06%	0.06%
定時制	2,746	262	-65	9.54%	-1.89%
通信制	1,045	37	26	3.54%	2.53%
合計	103,491	1,353	7	1.31%	0.02%

(注)平成25年度の調査から通信制が加わった。

### 1-(2) 中途退学者(人数)・中途退学率(%)の推移

		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
全日制	中退者数	1,157	1,177	1,083	1,107	1,020	875	1,008	1,008	1,054
	中退率(%)	1.18%	1.18%	1.07%	1.11%	1.01%	0.87%	1.00%	1.00%	1.06%
定時制	中退者数	494	530	480	473	443	391	282	327	262
	中退率(%)	14.18%	14.82%	13.18%	13.45%	13.26%	12.67%	9.69%	11.43%	9.54%
通信制	中退者数	—	—	—	10	14	38	42	11	37
	中退率(%)	—	—	—	0.69%	1.32%	3.29%	3.91%	1.01%	3.54%
合計	中退者数	1,651	1,707	1,563	1,590	1,477	1,304	1,332	1,346	1,353
	中退率(%)	1.62%	1.66%	1.50%	1.51%	1.40%	1.24%	1.27%	1.29%	1.31%



2-(1) 全日制学年別中途退学者数

学年	在籍者数 (4/1現在a)	中退者数(b)	中退率 (b/a %)	中退率 前年比	割合 (%)	割合 前年比
1	26,479	441	1.67%	0.08%	41.8%	-1.8%
2	26,546	393	1.48%	0.26%	37.3%	4.5%
3	26,957	116	0.43%	-0.08%	11.0%	-2.6%
単位制	19,718	104	0.53%	-0.01%	9.9%	-0.1%
合計	99,700	1,054	1.06%	0.06%	100%	

2-(2) 定時制・通信制中途退学者数

学年	在籍者数 (4/1現在a)	中退者数(b)	中退率 (b/a %)	中退率 前年比
定時制	2,746	262	9.54%	-1.89%
通信制	1,045	37	3.54%	2.53%
合計	3,791	299	7.89%	-0.66%

3 中途退学の理由別割合

中途退学の理由	全日制			定時制			通信制			合計			
	総数	割合(%)	前年比	総数	割合(%)	前年比	総数	割合(%)	前年比	総数	割合(%)	前年比	
学 業 不 振	205	19.4%	6.1%	7	2.7%	-5.6%	0	0.0%	-27.3%	212	15.7%	3.5%	
学 業 不 適 応 学 校 生 活	もともと高校生活に熱意がない	198	18.8%	-3.7%	71	27.1%	4.8%	3	8.1%	8.1%	272	20.1%	-2.2%
	授業に興味がない	56	5.3%	-4.4%	11	4.2%	-1.6%	1	2.7%	2.7%	68	5.0%	-3.7%
	人間関係がうまく保てない	110	10.4%	0.5%	24	9.2%	0.0%	0	0.0%	0.0%	134	9.9%	0.2%
	学校の雰囲気が合わない	50	4.7%	-1.6%	8	3.1%	0.3%	0	0.0%	0.0%	58	4.3%	-1.0%
	その他	43	4.1%	0.1%	3	1.1%	-7.5%	20	54.1%	54.1%	66	4.9%	-0.2%
進 路 変 更	別の高校への入学を希望	146	13.9%	4.5%	18	6.9%	-0.1%	0	0.0%	-63.6%	164	12.1%	2.8%
	専修・各種学校への入学を希望	25	2.4%	2.0%	1	0.4%	-0.8%	1	2.7%	2.7%	27	2.0%	1.4%
	就職を希望	62	5.9%	-1.7%	36	13.7%	-1.6%	2	5.4%	-3.7%	100	7.4%	-2.1%
	高卒程度認定試験受験を希望	16	1.5%	-0.4%	2	0.8%	-1.0%	0	0.0%	0.0%	18	1.3%	-0.6%
	その他	18	1.7%	-0.2%	13	5.0%	2.6%	10	27.0%	27.0%	41	3.0%	1.0%
病 気 け が 死 亡	57	5.4%	2.3%	5	1.9%	0.7%	0	0.0%	0.0%	62	4.6%	2.0%	
経 済 的 理 由	2	0.2%	-0.3%	10	3.8%	-0.8%	0	0.0%	0.0%	12	0.9%	-0.6%	
家 庭 の 事 情	33	3.1%	-0.6%	30	11.5%	5.7%	0	0.0%	0.0%	63	4.7%	0.5%	
問 題 行 動 等	25	2.4%	-1.6%	4	1.5%	-1.9%	0	0.0%	0.0%	29	2.1%	-1.7%	
そ の 他 の 理 由	8	0.8%	-1.1%	19	7.3%	7.0%	0	0.0%	0.0%	27	2.0%	0.5%	
合計	1,054	100%		262	100%		37	100%		1,353	100%		

(注1) 上記の割合は(%)は中途退学者数に対する割合を示している。

(中途退学者数: 全日制 1,054人、定時制 262人、通信制 37人)

(注2) 資料中の割合の欄は四捨五入で処理した数値のため、合計と合わない場合がある。